

ふじみサラダボール子育て情報

「遊びと学力」
平成30年9月5日号
板橋富士見幼稚園



遊びには、加減と習熟がいっぱい —体験主義は能力の高い子を育てる—

子どもは、同じ遊びを何度も繰り返し、よく飽きずに続けられると思うことはありませんか。実は同じ遊びを何度も繰り返ししていても、よく見るとそこにはこだわりがあり、加減したり、繰り返したりながら、自分の思い通りの結果になるまで習熟しているのです。

例えば、バケツに水を汲み、移動する時の姿を思い浮かべてください。自分でバケツに水を汲み入れる時、溢れるまで入れ水を止めます。そして持とうとするとかなりの力が必要であることに気づきます。頑張って持ち上げ、何とか両手で全身を使って移動し始めます。



バケツの水は身体の揺れと同時に溢れ出し、目的地についたときは半分ぐらいになっています。そして、2回目、3回目と繰り返すことで、最も効率的な移動の在り方を見つけ出すのです。その子は自分が持てて、こぼさず移動できる量をバケツに加減することができるようになるのです。

そして、このような体験を繰り返すことで加減を繰り返し、習熟していきます。体験が無ければこのような感覚的知識は決して得ることはないでしょう。大人が、扱い方をあらかじめ指示したり、最も理想的なやり方を教え込ませても、知識としては蓄えることはできても操作する加減や繰り返す体験から得る習熟【深めた知識】は身につかないのです。

つまり、教えられた知識を持つ子は、水の出方、量や段差、坂、障害物などがあると、戸惑ってしまい、出来なくなってしまいます。しかし、無駄のような遊びを何度も繰り返した子どもは、その時の状況の中で加減することができ、安定的に水を目的地まで運ぶことができるようになります。

子どもが主体的に遊ぶ遊びの中を丁寧に見てみると、小学校の教科書の中に出てくる学びが、たくさん存在していることがわかります。

特に加減などは、自らの体験からしか得ることの出来ない知識の宝庫です。幼児期の3年間、質の高い遊びをしっかりと十分に体験させることが、小学校以上の授業で高い学力を生み出す源泉となるのです。

早期に教え込まれた知識は、体験から得た知識にすぐに追い越されていきます。したいこと、してほしいことをしっかりサポートしてあげたいものですね。